

黒潮町の文化財

No.1

黒潮町には、古くから恵まれた自然とともに育まれた数多くの文化遺産があります。

これらの文化財は、さまざまな自然環境の変化や時代の流れの中で、郷土の先人たちの努力により今日まで受け継がれてきたもので、これらの先人の残した文化遺産を後世に伝えることが大切であると思います。

黒潮町の歴史や文化を共有することや振り返るために、今月から「黒潮町の文化財シリーズ」として、文化財や歴史などを紹介していきます。

『名勝 入野松原』



入野松原全景

【歴史的関わり】

入野松原を歴史的に見ると次のようになります。

また、入野松原はその大部分が国有林ですが、小松原といわれている海側の松原は町有林です。

◆1576～1580年(天正4～8年)―起源

1926年(昭和3年)に内務省が『名勝 入野松原』を指定したときの「由来伝説」では、「天正中長宗我部元親の重臣谷忠兵衛忠澄が中村城代であった時、罪囚に課して植えしめたものと云う」と記されています。

これは、谷真潮の『西浦廻見日記』(1777年/安永6年)の記述を参考にしたと思われます。谷忠兵衛が中村城代となったのは、1576～1580年(天正4～8年)であり、これを入野松原の起源としています。

一方、『土佐物語2の四国軍記全』によれば、長宗我部元親が入野に立ち寄った際、松原を賞賛していることから、それまでに既に松原はあり、谷忠兵衛が行ったのは補植であるともいわれています。

◆1707年(宝永4年)―宝永大地震

1707年(宝永4年)に起こった、潮岬沖の海中を震源地としたマグニチュード8・4という大地震は、日本全土にわたって大きな被害を及ぼし、高知県下でも2千人に近い死者を出し、1万人以上の家屋を失いました。この時、松原も大きな被害を受けましたが、この復旧対策として、近在の住民一戸あたり6本のクロマツを植栽し、防潮に備えたといわれています。

◆1910年(明治43年)―千谷松原

吹上川右岸に沿う約200mの松原は『千谷松原』と呼ばれ、1910年頃に旧大方町(入野村)早咲の千谷本次郎氏が植樹したものです。



【指定】

◆1923年(大正11年)3月 防風保安林の指定を受け、禁伐としての施業制限が行われる(約36ha)。

◆1928年(昭和3年)2月 『名勝 入野松原』として、内務省の「史跡名勝天然記念物」の指定を受ける。

◆1956年(昭和31年)1月 高知県知事より県立自然公園普通地域の『入野県立公園』の指定を受ける。

◆1968年(昭和43年)10月 鳥獣保護区特別保護地域の指定を受ける。

◆1945年(昭和20年)

アメリカ軍上陸に備えて陸軍より伐採命令が出され、松原は存亡の危機に立ちました。しかし、当時の中村営林署長 堀内雍喜氏の懸命な努力によって伐採を免れました。

今日では、周辺の住宅を塩害から守る防風保安林としての機能のほかに、森林浴や健康づくりのためのウォーキングコースとしても利用されており、長さ4kmの入野の浜と共に黒潮町が全国に誇る名勝となっています。

このシリーズに関するお問い合わせは、教育委員会 文化振興係(大方あかつき館内) ☎43-2110(直通まで)